



## 節分にちなみ一人一人鬼のお面を付けて「豆まき」をしました。



2月3日は節分ですが一足早く1月31日(金)に全園児による「豆まき」を行いました。

まず、クラスごとに記念写真を撮ります。子どもたちの頭には色とりどりの「鬼のお面」がつけられています。3学期に入り、今日のために各クラスで製作したものです。



年長組のお面は、鬼の形をしたお面に自由に色を付け毛糸の髪の毛をつけてあります。顔の色も髪の毛とてもカラフルな鬼のお面です。さらに金棒の形をした升に豆を入れています。

年中組のお面は子ども達の手形を角にしていました。そして眉やキバは各人の個性あふれる表情豊かな仕上がりでした。升は牛乳パックで工作した手提げ袋のような形でした。

年少・ばんび組のお面は、紙皿を土台としてちぎった色紙で色をつけています。こちらも眉やキバの部品を貼り付けるため、年中組さんに負けない表情のお面になっていました。升は首から下げた鬼の顔型です。これなら豆をこぼしません。



クラスごとの写真撮影も終わり、豆まき開始ですが、最初に園長先生から説明がありました。まずは「歳の数だけ豆を食べると福が来る」ということで、持っている豆を食べました。次に、節分と豆まきの由来などについて話を聞きました。「季節の分かれ目：節分」は邪が入りやすく、特に旧暦では立春のころは当時の新年の始まりだったため、最も大切な節目とされました。そこで「鬼を追い払う邪気祓いの行事」として豆まきが始まったそうです。園長先生からも、心の中の「意地悪をする鬼」「すぐ泣いてしまう弱虫の鬼」などを追い出しましょう、というような話がありました。



そしていよいよ豆まきの始まりです。円の中では、青鬼、赤鬼と緑鬼の3人が子どもたちをにらんでいます。クラスごとに、豆を投げて鬼を退治します。年長組⇒ばんび組⇒年少組⇒年中組の順に豆まきをします。鬼に追われ逃げまどう子どもたち。円外の子も達による「鬼は外」のかけ声で逆襲の始まりです。持っている豆を鬼めがけて投げつける子どもたち。鬼も少しずつ弱っているようです。見事鬼を退治できました！